

平成22年度

石手川ダム水源地域ビジョン

活 動 報 告 書

石手川ダム水源地域ビジョン推進連絡協議会

1. 会議等 開催状況

○平成 22 年 6 月 11 日 推進委員会 出席委員 9 名

○ 同 日 連絡協議会 出席委員 21 名
・ 第 1 回地域づくり部会
・ 第 1 回環境づくり部会

○平成 22 年 7 月 11 日 オオムラサキを自然にかえす会実施
参加者 58 名

○平成 22 年 7 月 26 日 自然と遊ぼう DAY! 実施 参加者 119 名

○平成 22 年 11 月 16 日 第 2 回環境づくり部会 出席委員 8 名

○平成 22 年 11 月 20 日 自然観察会&ダム見学実施 参加者 53 名

○平成 22 年 11 月 25 日 第 2 回地域づくり部会 出席委員 11 名

○平成 23 年 2 月 6 日 竹を使おう DAY! (第 1 部: 間伐、窯入れ) 実施
参加者 45 名

○平成 23 年 2 月 20 日 竹を使おう DAY! (第 2 部: 窯出し、竹加工) 実施
参加者 50 名

○平成 23 年 2 月 25 日 留学生友好の森づくり実施 参加者 135 名

○平成 23 年 2 月 26 日 自然観察会 (オオムラサキの幼虫を探そう) 実施
参加者 87 名

2. 検討内容

◎ 平成 22 年 6 月 11 日 推進委員会での協議

大枠の方向性は以下のとおり。

1. 放置竹林対策や竹の有効活用について（両部会）

○21年度の事業結果を踏まえ、引き続き将来的な課題として研究する。

2. 留学生友好の森づくり事業の実施について（地域づくり部会）

○特に安全面に配慮のうえ、継続実施する。

3. 遊休農地の有効活用について（地域づくり部会）

○一昨年に発足した「水農里会」と積極的に連携を図りながら、「自然農による体験学習」事業を実施する。

4. 自然観察会の実施について（環境づくり部会）

○開催する時期や回数、参加者等も十分検討のうえ、継続実施する。

以上のような方向性で、詳細の検討や事業の実施は連絡協議会に一任する。
また、予算についてもこれまでどおりであるが、国等で実施している各種助成制度の活用については事務局へ一任する。

◎ 平成 22 年 6 月 11 日 連絡協議会での協議

1. 放置竹林対策や竹の有効活用について（両部会）

○21年度に実施した炭焼き体験に加え、22年度は放置竹林の整備活動にも取り組む。

2. 留学生友好の森づくり事業の実施について（地域づくり部会）

○今年度も事業を実施する。

- ・実施にあたっては、特に子どもの安全面に配慮する。また、前回と同じ場所（市有林）で実施するのであれば、補植作業を中心に行う。
- ・事業の実施時期については、2～3月の春植えが最も適している。

3. 遊休農地の有効活用について（地域づくり部会）

○水農里会の活動を引き続き支援していくことで、遊休農地の有効活用を図る。

- ・会員の拡大や指導者の育成を行うとともに、研修会等を通して活動の広がりを図る。
- ・大学生の参加拡大について、検討を行う。

4. 自然観察会の実施について（環境づくり部会）

○例年通り、「自然と遊ぼう DAY!」と石手川ダムでの自然観察会を実施する。

また、オオムラサキの幼虫探しに加え、放蝶会を実施する。

5. 不法投棄防止対策について（環境づくり部会）

○引き続き啓発活動を実施する。また、必要に応じて新たな具体的対策について検討する。

◎ 平成 22 年 11 月 16 日 環境づくり部会での協議

1. 「自然と遊ぼう DAY！」の報告
2. 自然観察会&ダム自然観察会の周知
3. ごみの不法投棄について
 - ・設置看板の効果も一定見られることから、引き続き、状況をみながら検討していく。
4. 「オオムラサキの里づくり」の活動紹介
 - ・オオムラサキを自然にかえす会の報告
 - ・オオムラサキの幼虫を探そうの周知
5. 放置竹林対策や竹の有効活用について
 - ・昨年行った竹炭作りを、地域づくり部会と連携して行う。
6. その他
 - ・日浦地区よりホテルに関する新たな取り組みの紹介があり、ビジョンとしての関わりについて検討を行う。

◎ 平成 22 年 11 月 26 日 地域づくり部会での協議

1. 放置竹林対策や竹の有効活用について

○竹林の整備活動について

- ① 21 年度に実施した炭焼き体験に、竹林の整備活動を加える。
- ② 伐採から運び出しまでの段取り、安全対策などについて協議。
- ③ 実施場所や準備物、人数等の検討。

2. 留学生友好の森づくり事業について

○日浦小中学校の「日浦夢桜の森づくり」と協同で開催する。

- ・一昨年度と同じ場所で継続的な補植作業を実施し、記念植樹も行う。
- ・植樹場所は足場が悪いため、一昨年度同様、安全対策の徹底を図る。
- ・獣害により育っている木が余りない状況。⇒何らかの獣害対策が必要。

3. 水農里会の活動報告について